



## 【韓国】 秋夕連休などで休場、今週は出遅れ感から買い戻し優勢か

### 先週の動き／今週の展望

先週の韓国株式市場は開天節（建国記念日）や秋夕（韓国の旧盆）などのため、2-6日がすべて休場。9日もハンブルの日で休場となるため、今週は10-13日の4日間の立ち合い。連休明けの韓国市場は出遅れ感から買い戻しが優勢か。連休中に米国市場でダウ平均、ナスダック総合指数が連日で過去最高値を更新したほか、日経平均と香港ハンセン指数が年初来高値を付けるなど、アジア主要市場も総じて堅調に推移した。韓国市場は連休前の9月下旬以降に調整相場が続いただけに、安値拾いの買いが相場を押し上げよう。企業の7-9月決算が好調な内容になると見る向きが多く、業績期待を受けた先高観から総合指数が7月下旬に付けた高値を試す可能性がある。一方、北朝鮮による新たな挑発行動への警戒感が不安材料か。

▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS 指数は週間で 0.2%安と反落、今週は引き続き弱含みの展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で 0.2%安と反落。週明けの原油相場で供給過剰への警戒感が台頭し、ブレント原油価格が 55 ドル台前半まで下落したことで指数は連れ安し、週央までマイナス圏での取引。しかし週後半には、サウジアラビア国王のロシア公式訪問で原油減産の延長合意が成立するとの期待が高まり、ブレント原油価格が 57 ドル台まで持ち直すと、RTS 指数も 6 日序盤に前週高値を上回る 1146.37 ドルまで上昇。ただ、熱帯低気圧ネイトがメキシコ湾岸の製油所に被害をもたらすとの恐れで原油価格が急落したことに加え、米株市場が 9 月雇用統計を受けて軟調な取引開始になった流れを受け、RTS 指数は下落に転じた。前日比 0.9%安の 1134.30 ドルで週の取引を終えている。今週は引き続き、弱含みの展開か。

▼指数チャート



## 【ベトナム】 VN 指数は週間で 0.4%高と反発、今週はもみ合う展開か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.4%高と反発。週半ばまでは高値警戒感に加え、原油価格が供給過剰懸念で下落したことが嫌気され、エネルギー株を中心に軟調な展開。3日には一時、節目の 800 ポイントを下回った。ただ、下値の堅さが確認されると主力株中心に値を戻し、5日には 810.54 ポイントまで上昇。2008 年 2 月以来の高値を 5 週連続で更新した。6 日は前夜に NY 原油価格が 50 ドル台まで値を戻したことを下支えに、後場序盤を除きプラス圏で推移し、前日比 0.3%高の 807.80 ポイントで取引を終了した。個別では原油安を受けてペトロベトナムガスが週間で 1.9%安となり、指数の上値を抑えたが、軍隊商業銀行が 6.2%高となるなど多くの銀行株が上昇し、指数の反発を支えた。今週は高値警戒を背景に引き続きもみ合いか。

▼指数チャート



## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%高、2日連続で過去最高値を更新**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1%高と小幅に反発。週半ばまでの上昇分を後半の下落でほぼ帳消しにした。週初の2日は前週末に発表された中国の9月の公式製造業 PMI が前月を上回ったことに加え、インドネシアの9月の CPI 上昇率が3カ月連続で前月を下回り、物価上昇圧力が低下したことが好感されて指数は続伸。3日に終値で約6週間ぶりに過去最高値を更新すると4日はさらに上値を広げたが、5日は反動で5営業日ぶりに反落した。今週は9日発表の8月の小売売上高に対する市場の反応が焦点。外部要因では11日に公表される FOMC 議事録と13日発表の中国の貿易統計に注目が集まりそうだ。

### ▼指数チャート



## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.2%高と反発、今週は13日に7-9月期の GDP 発表**

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.2%高と反発。週末に上昇し、上げ幅が広がった。週初の2日は金融株が買われて指数は前週末に比べて1.3%上昇し、3営業日ぶりに反発したが、3日は前日の取引終了後に発表された9月の製造業 PMI が 52.0 と 2011年4月以来の最高値に達したことが買い材料にならずに反落。4日は9月の日経 PMI が 53.7 と 14年7月以来の水準を更新したものの、続落した。ただ、5日に反動が出て買い戻されると、6日は終値ベースで8月15日以来の高値を更新して引けた。今週は12日に8月の小売売上高、13日に7-9月期の GDP 速報値といった経済指標が発表される予定。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%高、6日の場中に 1700 ポイント到達**

SET 指数は週間で 1.4%高と続伸。前週の勢いを維持し、じりじりと上値を広げた。週初の2日は9月の CPI 上昇率が前年同月比 0.9%と市場予想から上振れし、3カ月連続でプラス圏を維持したことや、日銀短観の大企業製造業指数がリーマン・ショック後の最高水準に達したことが好感されて終値ベースで年初来の高値を更新。4日は原油価格の下落を受けてエネルギー関連株が売られ、指数は4営業日ぶりに反落したものの5日に反発すると、6日は場中に一時、節目の 1700 ポイントに達した。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。13日はプミポン前国王記念日のため休場となる。

### ▼指数チャート



## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%高、8月の輸出は前年同月比 21.5%増**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5%高と3週ぶりに反発。おおむね堅調に推移した1週間だった。3日は指数ウェートの大きいゲンティンのけん引で11営業日ぶりに反発すると、4日も値ごろ感のある銘柄が買われて続伸。5日は小幅に反落したが、6日は8月の輸出が前年同月比 21.5%増と市場予想から上振れしたことが好感され、反発して引けた。今週は12日に8月の鉱工業生産、13日に小売売上高が発表される予定。外部要因では前週末に発表された9月の米雇用統計で、非農業部門の雇用者数が米南部を襲ったハリケーンの影響で前月から3万3千人減少したことに対する市場の反応が注目される。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。